

習志野市教育委員会第3回定例会

日時:令和5年3月22日(水)13時30分

場所:市庁舎3階大会議室

日 程	審議順
1 会議録の承認	(予定)
2 報告事項	
(1) 令和5年度習志野市立習志野高等学校の入試状況について	(学校教育課) 1
(2) 令和4年度3学期いじめアンケート集計結果と考察について	(指導課) 2
(3) 令和4年度新体力テストの結果について	(指導課) 3
(4) 習志野市子どもの読書活動推進計画の中間年度における取り組み内容の見直しについて	(社会教育課) 4
3 議決事項	
議案第7号 習志野市教育機関組織規則の一部を改正する規則の制定について	(教育総務課) 5
議案第8号 習志野市立小学校及び中学校管理規則及び習志野市立高等学校管理規則の一部を改正する規則の制定について	(学校教育課) 6
議案第9号 習志野市第2次学校施設再生計画の中間見直しについて	(教育総務課) 7
4 協議事項	
協議第1号 次回教育委員会定例会の期日について 令和5年4月26日(水)午後1時30分	8
5 その他	

※は非公開の見込み

令和5年習志野市教育委員会第3回定例会 議案概要

報告事項(1)

令和5年度習志野市立習志野高等学校の入試状況について

・令和5年度習志野市立習志野高等学校の入試状況について、報告するものです。

報告事項(2)

令和4年度3学期いじめアンケート集計結果と考察について

・令和4年度3学期いじめアンケート集計結果と考察について、報告するものです。

報告事項(3)

令和4年度新体カテストの結果について

・令和4年度新体カテストの結果について、報告するものです。

報告事項(4)

習志野市子どもの読書活動推進計画の中間年度における取り組み内容の見直しについて

・習志野市子どもの読書活動推進計画の中間年度における取り組み内容の見直しについて、報告するものです。

議案第7号

習志野市教育機関組織規則の一部を改正する規則の制定について

・青少年センター事業活動を行うための補導委員について、各学校のPTA会員の負担軽減のため、構成範囲を拡大することについて、改正するものです。

議案第8号

習志野市立小学校及び中学校管理規則及び習志野市立高等学校管理規則の一部を改正する規則の制定について

・地域と学校が、今まで以上に組織的かつ継続的に連携・協働できる体制を構築することを目的として、学校評議員制度から学校運営協議会制度へ移行することに伴い、改正するものです。

議案第9号

習志野市第2次学校施設再生計画の中間見直しについて

・令和2年度から令和7年度までを計画期間とする習志野市第2次学校施設再生計画について、中間見直しを行い、改訂するものです。

令和5年3月22日(水)

習志野市教育委員会第3回定例会 追加議案

日 程	審議順 (予定)
1 報告事項	
※(5) 臨時代理の報告について (習志野市立幼稚園の園長及び教頭並びに習志野市教育委員会5級の管理主事(幼稚園に係る者)の任免について)	(学校教育課) 9
※(6) 臨時代理の報告について (習志野市立小学校、中学校の校長及び教頭の人事異動に係る内申について)	(学校教育課) 10
※(7) 臨時代理の報告について (習志野市立習志野高等学校の教頭の任免について)	(学校教育課) 11
2 議決事項	
※議案第10号 習志野市教育委員会6級以上の職員並びに5級の指導主事及び管理主事等(幼稚園に係る者を除く)の任免について	(教育総務課) 12

※は非公開の見込み

令和5年習志野市教育委員会第3回定例会 追加議案概要

【報告事項(5)ないし(7)及び議案第10号については非公開の見込み】

報告事項(5)【非公開予定】

臨時代理の報告について

(習志野市立幼稚園の園長及び教頭並びに習志野市教育委員会5級の管理主事(幼稚園に係る者)の任免について)

・習志野市立幼稚園の園長及び教頭並びに習志野市教育委員会5級の管理主事(幼稚園に係る者)の令和5年4月1日付けの任免について臨時代理したので、報告するものです。

報告事項(6)【非公開予定】

臨時代理の報告について

(習志野市立小学校、中学校の校長及び教頭の人事異動に係る内申について)

・習志野市立小学校、中学校の校長及び教頭の令和5年4月1日付け人事異動に係る内申について臨時代理したので、報告するものです。

報告事項(7)【非公開予定】

臨時代理の報告について

(習志野市立習志野高等学校の教頭の任免について)

・習志野市立習志野高等学校の教頭の令和5年3月31日付け及び令和5年4月1日付けの任免について臨時代理したので、報告するものです。

議案第10号【非公開予定】

習志野市教育委員会6級以上の職員並びに5級の指導主事及び管理主事等(幼稚園に係る者を除く)の任免について

・習志野市教育委員会6級以上の職員並びに5級の指導主事及び管理主事等(幼稚園に係る者を除く)の令和5年3月31日付け及び令和5年4月1日付けの任免に係るものです。

報告事項(1)

令和5年度習志野市立習志野高等学校の入試状況について

令和5年度習志野市立習志野高等学校の入試状況について、別紙のとおり報告する。

令和5年3月22日報告

習志野市教育委員会
教育長 小 熊 隆

令和5年度習志野市立習志野高等学校の入試状況について (R5.3.3 現在)

1 一般入学者選抜

志願確定倍率 (2月17日)

	定員 (人)	志願者			合格者			確定倍率 (倍)
		合計 (人)	市内生 (内数:人)	市内生割合 (%)	合計 (人)	市内生 (内数:人)	市内生割合 (%)	
普通科	240	264	63	23.9	240	57	23.8	1.10
商業科	80	100	9	9.0	80	7	8.8	1.25

※千葉県における公立全日制課程の志願確定倍率: 1.12倍 (令和4年度選抜: 1.11倍)

※志願取消: 普通科1名 (受検者263名)

2 志願確定倍率推移 (平成30年度~令和5年度) (単位: 倍)

	前期		後期	
	普通科	商業科	普通科	商業科
平成30年度	1.69	1.80	1.24	2.38
平成31年度	1.83	1.77	1.21	1.63
令和2年度	1.70	1.77	1.14	2.00
令和3年度	1.11	1.33		
令和4年度	1.27	1.38		
令和5年度	1.10	1.25		

令和3年度入試より、「一般入学者選抜」は、1回の実施となっている。

3 市内生の状況 (平成30年度~令和5年度) (単位: 人)

	普通科			商業科		
	受検者数	合格者数	市内生割合 (%)	受検者数	合格者数	市内生割合 (%)
平成30年度	54	54	22.5	12	6	7.3
平成31年度	81	60	25.0	4	4	5.0
令和2年度	74	62	25.8	14	8	10.0
令和3年度	59	57	23.8	6	5	6.3
令和4年度	64	53	22.1	11	9	11.3
令和5年度	63	57	23.8	9	7	8.8

%は小数第2位を四捨五入

報告事項(2)

令和4年度3学期いじめアンケート集計結果と考察について

令和4年度3学期いじめアンケート集計結果と考察について、別紙のとおり報告する。

令和5年3月22日報告

習志野市教育委員会
教育長 小 熊 隆

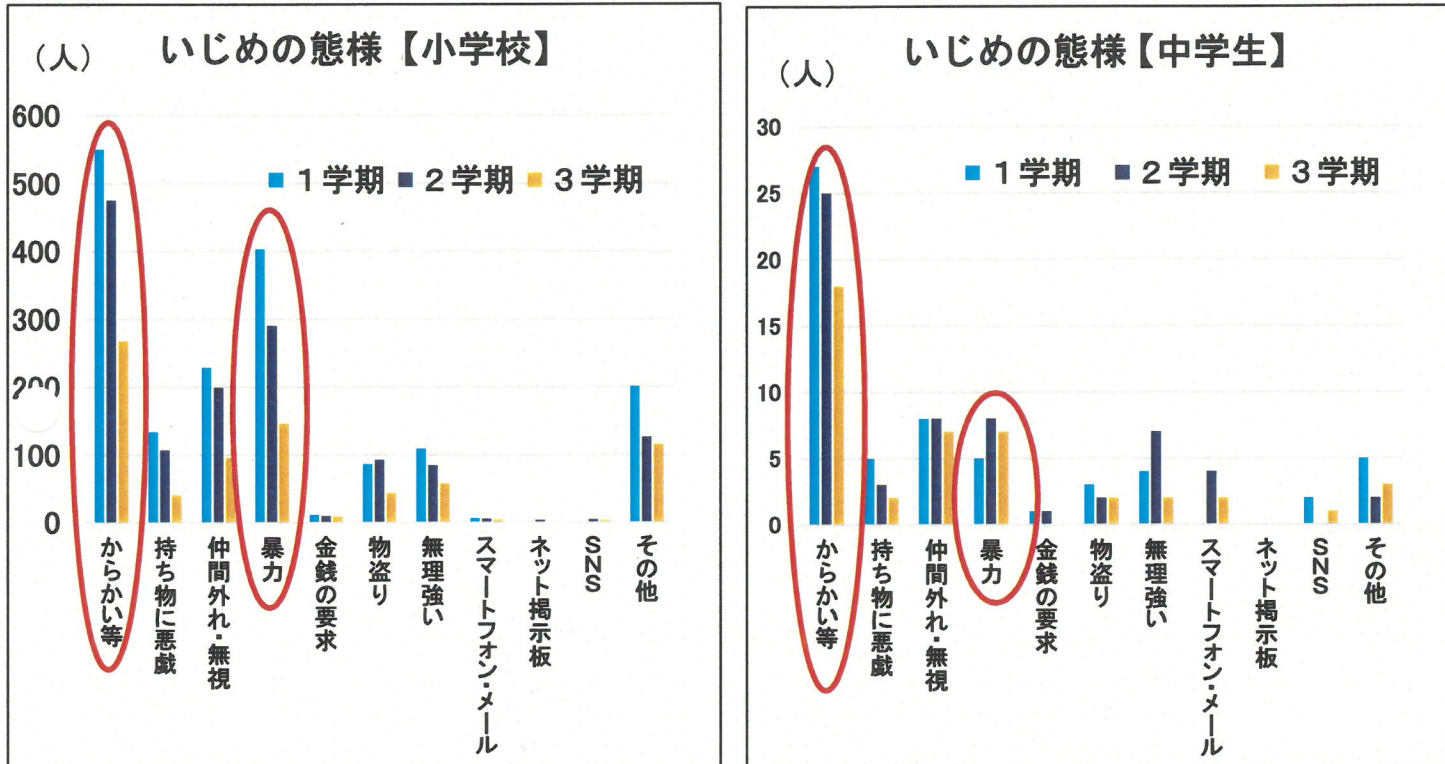
令和4年度 3学期いじめアンケート集計結果と考察【概要版】

(調査期間: 令和5年1月中旬～2月上旬)

1. 本市のいじめの状況と分析等

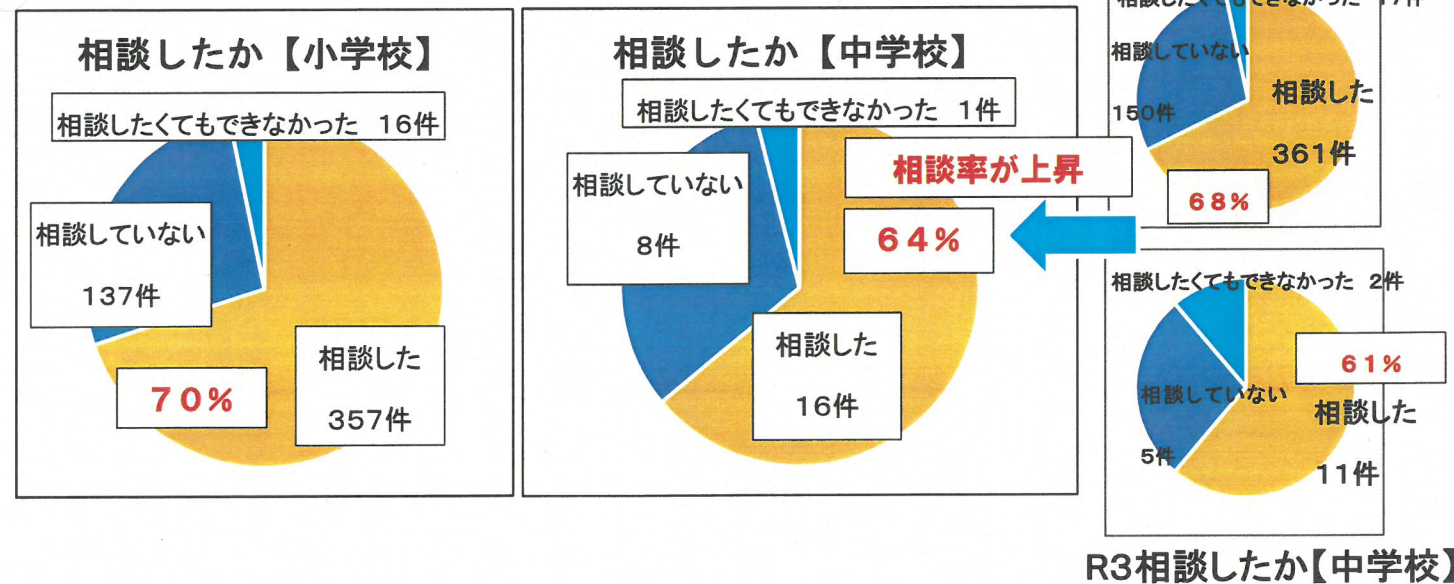
(1) いじめの内容(資料3)

①「からかい等」が1番多い ②小中学校で2番目に「暴力」が多い。

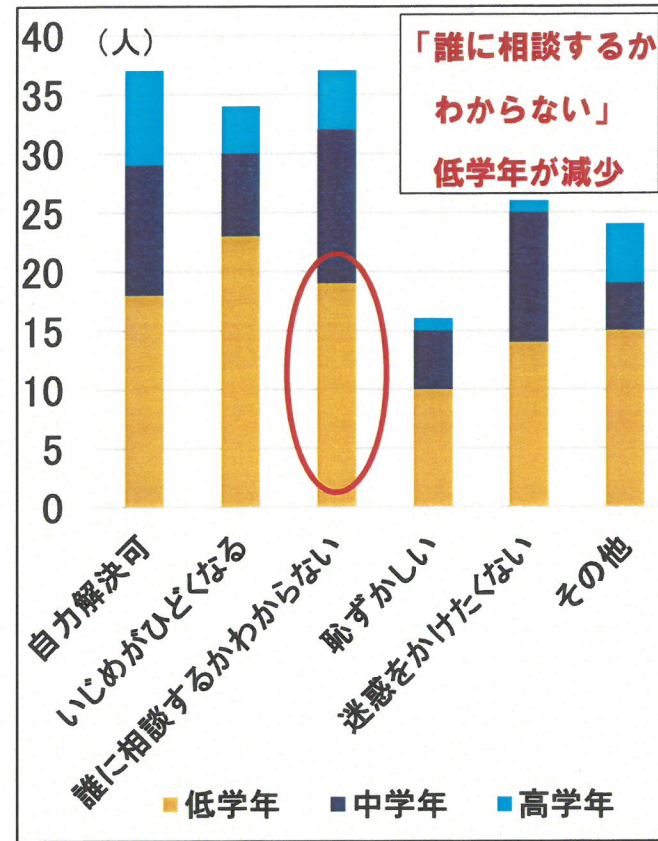


年間を通して、いじめの認知件数は減少している。いじめの態様として一番多いのが「からかい等」であるが、学期が進むごとに件数は減少している。小学生では1学期に「暴力」が多かったが、学期とともに減少した。これらは学校におけるさまざま教育効果により、互いの気持ちを考えることができたためと考えられる。中学生で2学期に多かったスマートフォン・メール等は3学期に減少しているが、今後も注視していく必要がある。

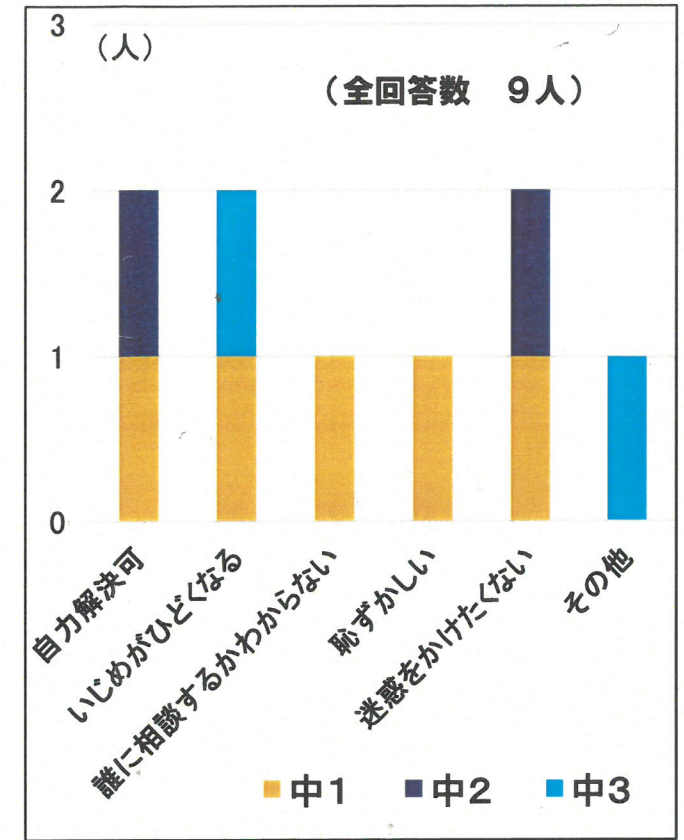
(2) 相談について(資料4・6)



相談していない理由【小学生】



相談していない理由【中学生】



- ①2学期と同様にいじめに対する相談は昨年度と比較すると小学生、中学生ともに相談率が上がっている。
- ②低学年の「誰に相談するかわからない」という児童の数は2学期よりも減少。(57人→19人)
- ③匿名なのでアンケート結果には表れていないが、匿名相談WEBアプリで一定数の相談がある。
友達との関係性の悩みや人間関係のトラブルに発展する可能性のあるメールもあった。

(3) いじめの解消状況(資料7)

11月末時点でいじめが未解消のものうち、今学期の調査時点で、現在もいじめが継続している件数は小学校では17件、中学校では2件ある。(小学校→93%解消、中学校→82%解消)

→アンケート実施後に全員に対して教育相談を行う。特に、アンケート実施時に「未解消である」と回答した児童生徒に対しては、迅速な本人からの聞き取り、継続的な教育相談と支援を行う。さらに、解消に向けた事実確認と加害側への指導、事後の見守りを継続して行っている。3か月後には8割以上は解消をしている。

2学期いじめアンケートに関する事後確認 (2月現在 2学期アンケートから3か月後) (件)

	小学校	中学校
令和4年度2学期のアンケートでいじめが続いていると回答	248	11
上段の件数のうち現在もいじめ継続と回答しているもの(3学期)	17	2
	231件減少 (93%解消)	9件減少 (82%解消)

2. 結果から見た課題と今後の方向性

教:教育委員会 学:学校

<p>①【課題】「相談していない」「相談する相手がわからない」と答えた児童生徒が依然として存在。 →個別の教育相談の実施形態と質の向上。(R5 学校教育指導行政年間計画への位置付け)</p>	<p>②【課題】いじめの態様については「からかい等」がどの学年でも多い →児童生徒が、何がいじめにあたるのかを認識し、いじめを見かけた時の行動を理解する。</p>
<p>2学期からの取組</p> <p>教:匿名メール相談 WEB アプリを継続していく。相談窓口全般のリーフレットを各学校に配付し周知活用を図った。 学:児童生徒が SC、養護教諭、教育相談員と接する時間を設けることや個別の教育相談時にリーフレットを配付し相談できることを児童生徒に伝えた。</p>	<p>教: 集約担当による状況把握、校内での確実な情報共有、複数職員による組織的な初期対応ができるよう、校長会議、生徒指導訪問、毎月の生徒指導主任会議等で周知を図ることを継続。 学:児童生徒を主体とした「いじめは絶対にしてはならない」という啓発活動を継続。</p>
<p>3学期の現状</p> <p>ア. 匿名メール相談では匿名だから言える内容もあり、アンケート結果には反映されないが一定数の相談があった。 イ. 教育委員会より発出された教育相談リーフレットを個別の教育相談時に配付した。低学年の「相談できなかった」人数が減少しており、アンケート実施時の相談率も上昇している。</p>	<p>ア. 集約担当による校内での確実な共有、組織的な対応など、年間を通じて生徒指導主任会議、校長会議、生徒指導訪問等で伝え続けたことで、初期対応の在り方への意識を高めることができた。 イ. 各学校において、児童生徒が主体となっていじめ防止を啓発していく様々な取組が実施された。今年度の取組を見直し、来年度に向けて改善を図ろうとする動きも見られる。</p>
<p>課題</p> <p>ア. 匿名メール相談 WEB アプリや各種相談窓口への相談についてさらなる活用を進める。 イ. アンケート実施時点の「相談していない」、「相談する相手がわからない」をさらに減らしていく必要がある。</p>	<p>ア 教職員全体がいじめ問題について対応を学ぶ機会や有識者から研修を受ける機会が必要。 イ. 児童会生徒会が主体となっていくいじめ防止活動の継続とともに、いじめ防止教育を学校の年間計画、活動計画に位置付ける。</p>
<p>今後の取組</p> <p>【教育委員会】</p> <p>①令和5年度学校教育指導行政年間計画に、各校の教育相談週間を掲載し、確実に実施することを促すとともに、個別の教育相談時に教育相談リーフレットを配付し、身近にいる大人に相談できることを周知する。 ②いじめを重篤化させないための学校での対応について、研修を行う。 生徒指導主任会議(4月)、弁護士による研修(各中学校区)、校長研修(8月) ③習志野市いじめ防止基本方針の内容を検討していき、いじめ未然防止、早期発見が推進できるよう見直しを図っていく。</p> <p>【学校】</p> <p>①脱いじめ傍観者教育、匿名メール相談 WEB アプリの活用を継続し、普段の小さなトラブルにおいても、耐えるのではなく「困った、助けて」と言える環境づくりを行う。教育相談においては、相談窓口を SC、教育相談員、養護教諭等、教職員以外にも広げていけるよう工夫し、周知を図る。 ②児童生徒を主体とした啓発活動のほか、いじめ防止教育や人権教育等を教育計画に位置付ける。 ③いじめ問題に対する研修を受けた管理職、生徒指導主任が中心となり、いじめ未然防止、早期発見の対応を学校内で周知し、教職員全体への共有を図る。</p>	

令和4年度 3学期いじめアンケート集計結果

1 「習志野市いじめアンケート」の概要

(1) 目的

- ①市内の全ての市立小・中学校に通う児童生徒に、確実にいじめアンケートを実施することにより、各学校が定期的に自校のいじめの実態把握をして、いじめの早期発見、問題への迅速な対応、さらには未然防止に生かす。
- ②教育委員会が、いじめアンケートの集計結果より、市内の小・中学校のいじめの実態を把握し、対応及びいじめ問題対策委員会等、関係機関との連携に生かす。

(2) 本アンケートの生かし方

- ①各学校は、アンケートで認知したいじめについて、事実確認、いじめられた児童生徒への支援、いじめた児童生徒への指導、該当児童生徒の保護者への連絡等を行い、いじめ問題の解決を図る。
- ②教育委員会は、集計結果について市内の小・中学校のいじめの問題の傾向を分析、考察し、今後の指導事項、配慮事項をまとめて、各学校へ伝達するとともに各関係機関へ情報提供を行い連携等に生かす。

(3) アンケート実施上の配慮事項

- ①記名式アンケート実施にあたっては、小・中学生ともに家庭に持ち帰って実施する。小学生においては、学校で記入後自宅に持ち帰る等、児童や学校の実態に合わせて実施する。児童生徒が他者の目を気にせずに記入できるようにするとともに、保護者がアンケートの内容を確認できるように実施する。
- ②「いじめられた」と回答した児童生徒には、担任がアンケート実施後に、丁寧に個別の聴き取り調査を行い、児童生徒が精神的な苦痛を感じているものは、全ていじめと認知し管理職に報告する。
- ③無記名式アンケートについては、記名式アンケート実施後、ある程度の日数において、学校で実施をする。このことにより、いじめの解消を確認するとともに、記名式に書けなかった内容を把握する。
- ④アンケートの実施は年3回、教育委員会への報告期限を6月末、11月末、2月末とする。
- ⑤各学校において、アンケート用紙及び付属の資料等を含め、全てを5年間保管する。

(4) 令和4年度実施にかかる改善点

- ①無記名式アンケートをタブレットのアプリでの実施を選択可とした。

2 アンケート集計結果と考察について

令和4年度3学期いじめアンケート実施状況 対象:小学校9,077人・中学校4,121人

項目 校種	記名式アンケート		無記名式アンケート	
	回収数	回収率	回収数	回収率
小学校	8,995	99.1%	8,490	93.5%
中学校	4,107	99.7%	3,651	88.6%

実施期間:令和5年1月中旬～2月上旬

いじめアンケートが未実施である児童生徒の主な理由

- ・不登校、長欠・入院・家庭の事情・一時保護等
- ・無記名式アンケートは、欠席者に後日実施することは個人が特定されるためできない。

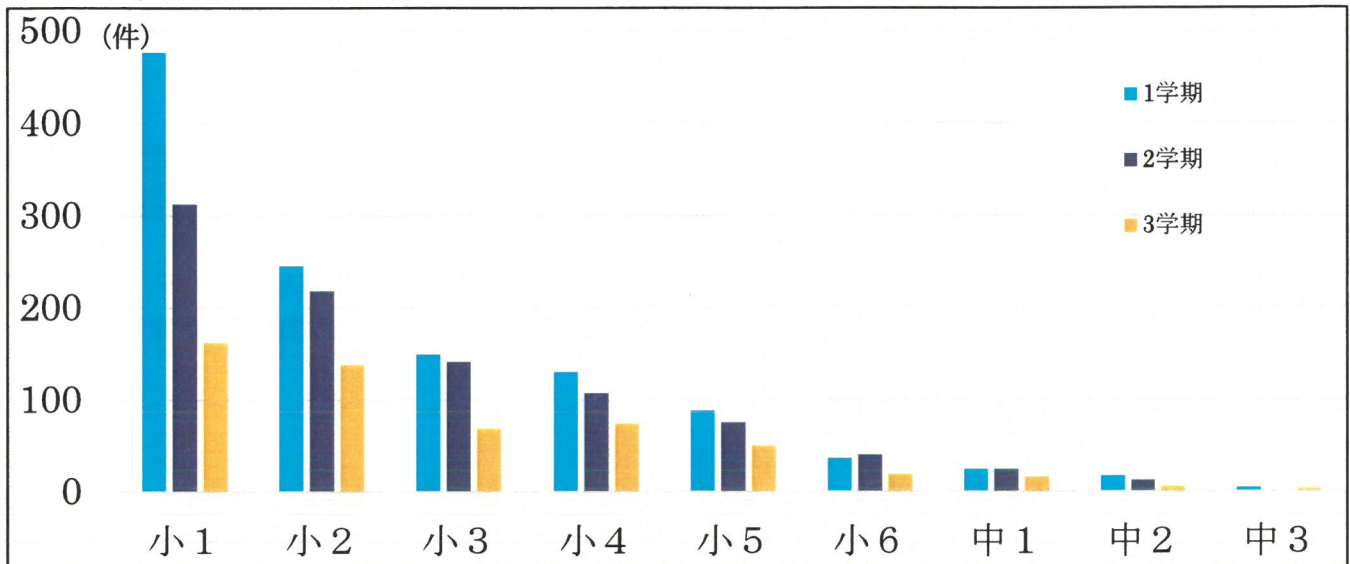
【資料1】

学年別のいじめ認知件数（記名式アンケートより）

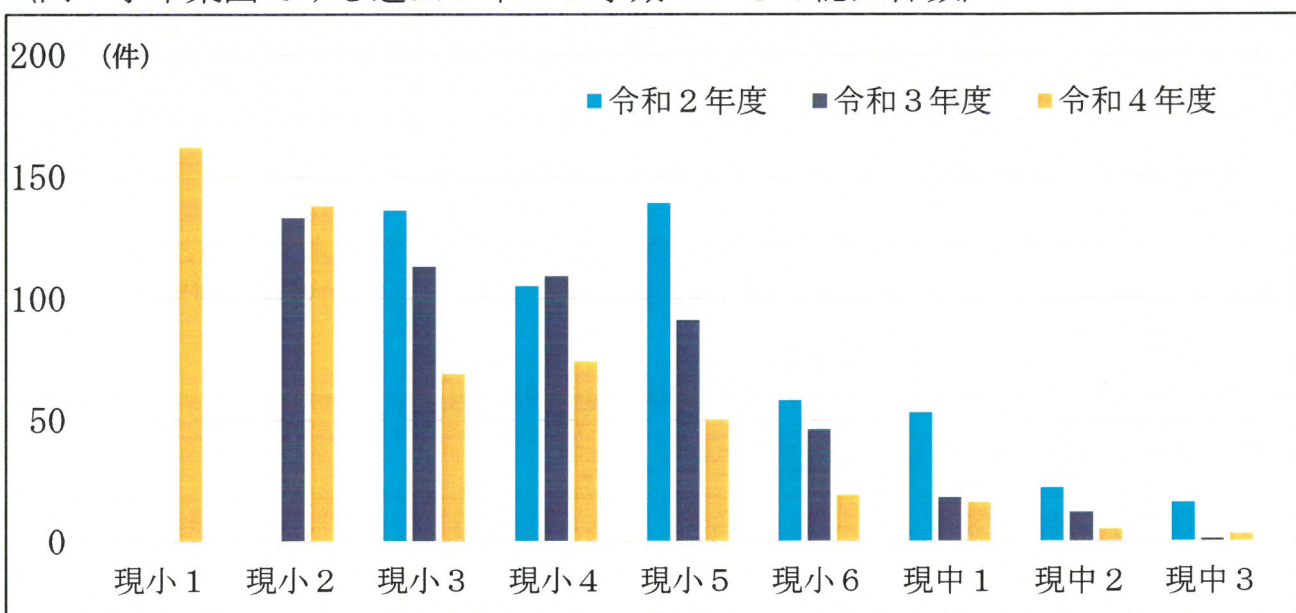
（件）

学年	小1	小2	小3	小4	小5	小6	計	中1	中2	中3	計
在籍数	1,540	1,528	1,486	1,499	1,566	1,458	9,077	1,390	1,368	1,363	4,121
認知件数	162	138	69	74	50	19	512	16	5	3	24

〈1学期から3学期の学年別いじめ認知件数の推移〉



〈同一学年集団でみる過去3年の3学期のいじめ認知件数〉



【結果】

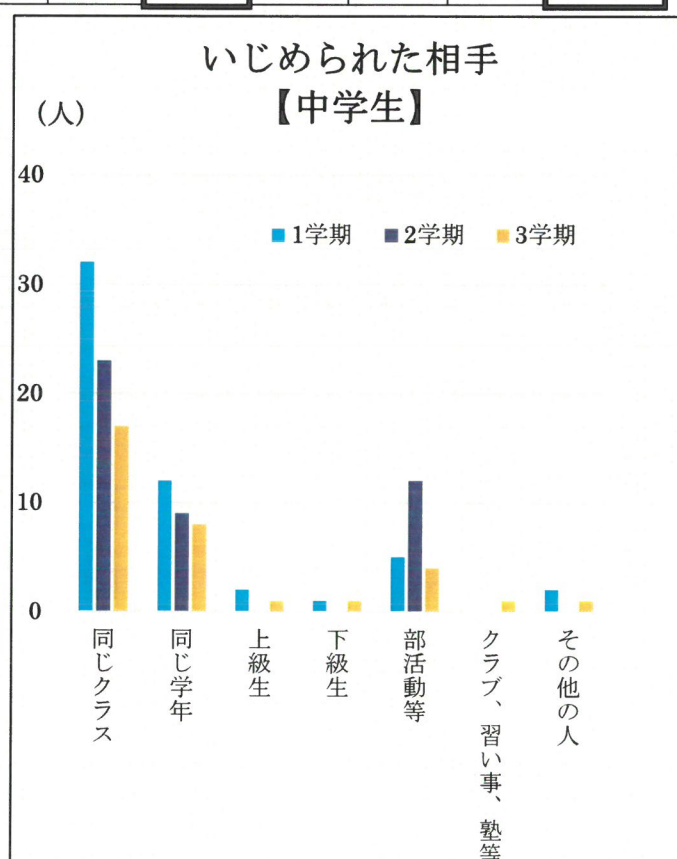
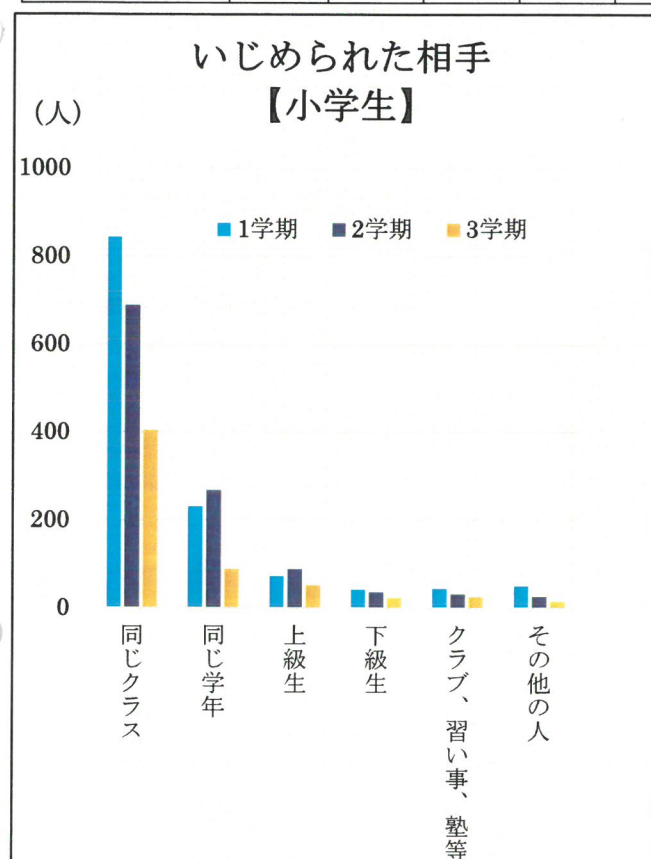
- ①一年間を通していじめの認知件数は全学年で減少している。
- ②学年が上がるにつれて、いじめの認知件数が減少している。
- ③3学期のいじめ認知件数を同一学年集団で追跡すると、学年が上がると認知件数は減少している。
- ④小学校1, 2年生の認知件数が全体の認知件数の約6割を占めている。

【資料2】

いじめられた相手

(人、複数回答可)

内容	小1	小2	小3	小4	小5	小6	計	中1	中2	中3	計
同じクラス	126	117	47	59	40	15	404	9	5	3	17
同じ学年	29	19	13	15	9	3	88	7	1	0	8
上級生	26	6	7	9	3	0	51	0	0	1	1
下級生	2	11	6	1	3	0	23	0	0	1	1
部活動等								4	0	0	4
クラブ、習い事、塾等	4	11	5	2	3	0	25	0	0	1	1
その他の人	3	1	4	2	2	2	14	0	0	1	1



【結果】

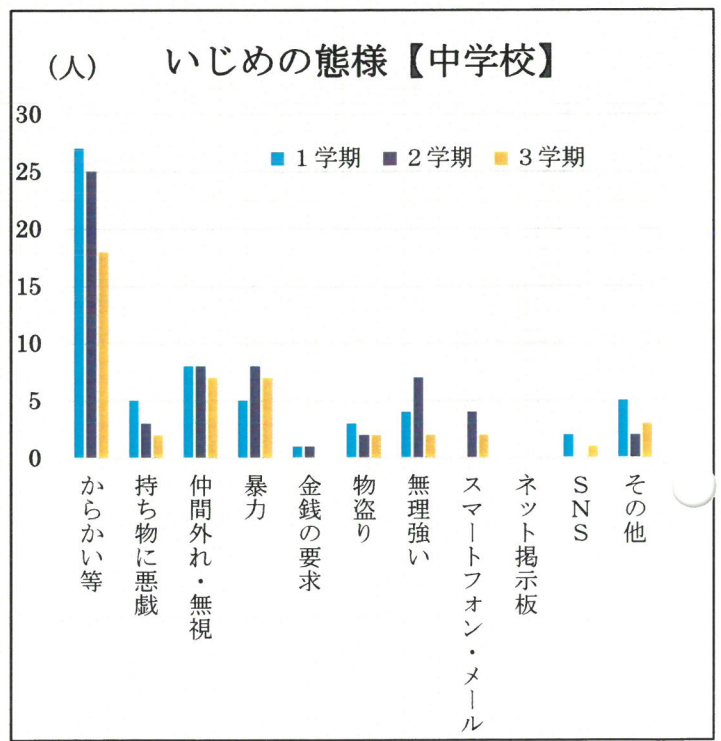
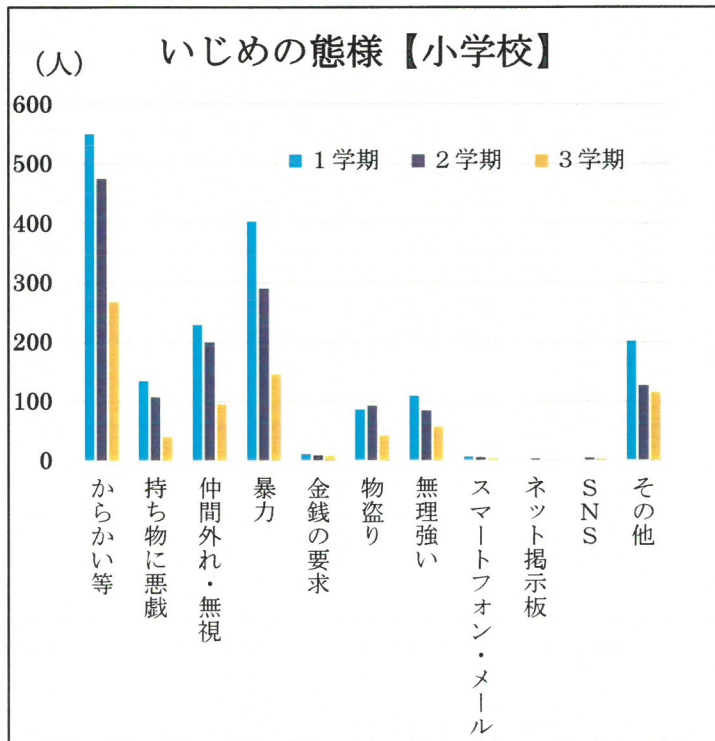
- ①小学生では、いじめられた相手として「同じクラス」が最も多く、67%を占めている。次に多いのが「同じ学年」と回答した児童であり15%の割合、その次が「上級生」であり8%の割合であった。
- ②中学生では、いじめられた相手として「同じクラス」が52%を占めており、半数が「同じクラス」である。小学生と比較して、中学生は「同じ学年」や「部活動等」と回答した生徒の割合が高い。「同じ学年」が24%、「部活動等」が12%であった。

【資料3】

いじめの態様

(人、複数回答可)

態様	小1	小2	小3	小4	小5	小6	計	中1	中2	中3	計
からかい等	80	73	35	41	27	12	268	14	2	2	18
持ち物に悪戯	16	6	3	4	9	2	40	1	1	0	2
仲間外れ・無視	28	27	11	12	12	5	95	4	3	0	7
暴力	67	27	18	16	11	7	146	5	2	0	7
金銭の要求	3	0	1	3	1	0	8	0	0	0	0
物盗り	16	6	6	5	5	5	43	1	0	1	2
無理強い	15	16	9	8	5	4	57	1	1	0	2
スマートフォン・メール	1	0	0	1	1	1	4	1	1	0	2
ネット掲示板	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
SNS	1	1	0	0	0	1	3	1	0	0	1
その他	24	39	17	23	8	4	115	2	1	0	3



【結果】

- いじめの態様については、小・中学校ともに、「からかい等」が1番多い。小学校では34%、中学校では41%を占めている。小・中学校で、次に多いのが「暴力」となっている。小学校では全体の19%、中学校では16%となっている。
- 小学生ではその他の項目の割合が高い。内容としては「無視をされる」、「言ってほしくないことを言われる」、「あだ名を言われる」、「遊びに入れてもらえない」、「洋服を引っ張られる」、「にらまれる」、「追いかける」、「ランドセルを引っ張られる」、「まねをされる」などが挙げられている。

【資料4】

いじめられたとき誰かに相談したか

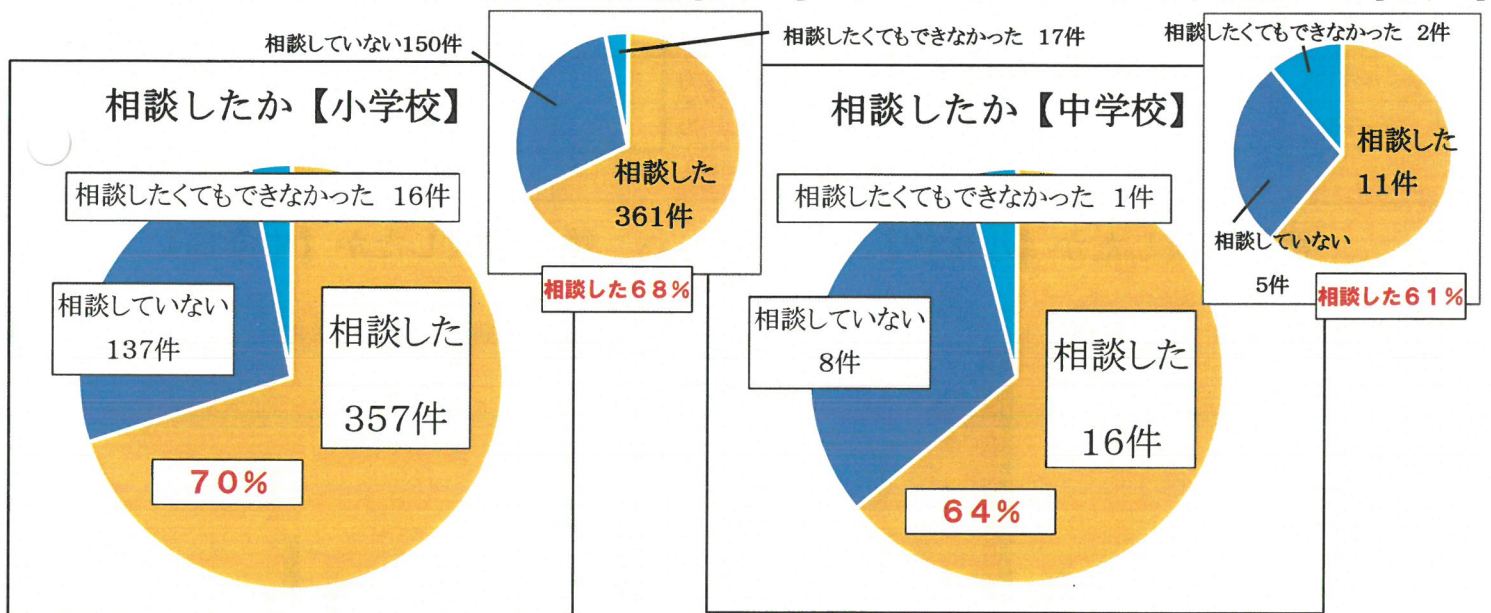
(複数回答あり、件)

学年	小1	小2	小3	小4	小5	小6	計	中1	中2	中3	計
相談した	117	94	46	52	34	14	357	11	4	1	16
相談していない	39	43	25	11	15	4	137	5	1	2	8
相談したくてもできなかった				14	1	1	16	0	1	0	1

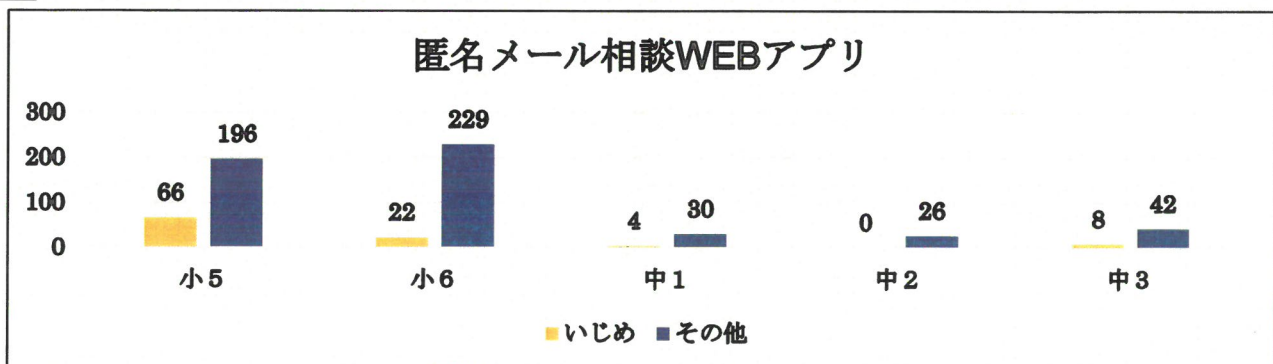
<いじめられたとき誰かに相談したか>

R3 3学期相談したか【小学校】

R3 3学期相談したか【中学校】



参考 <匿名メール相談 WEB アプリの実際の相談件数(令和4年5月～令和5年1月末)>



【結果】

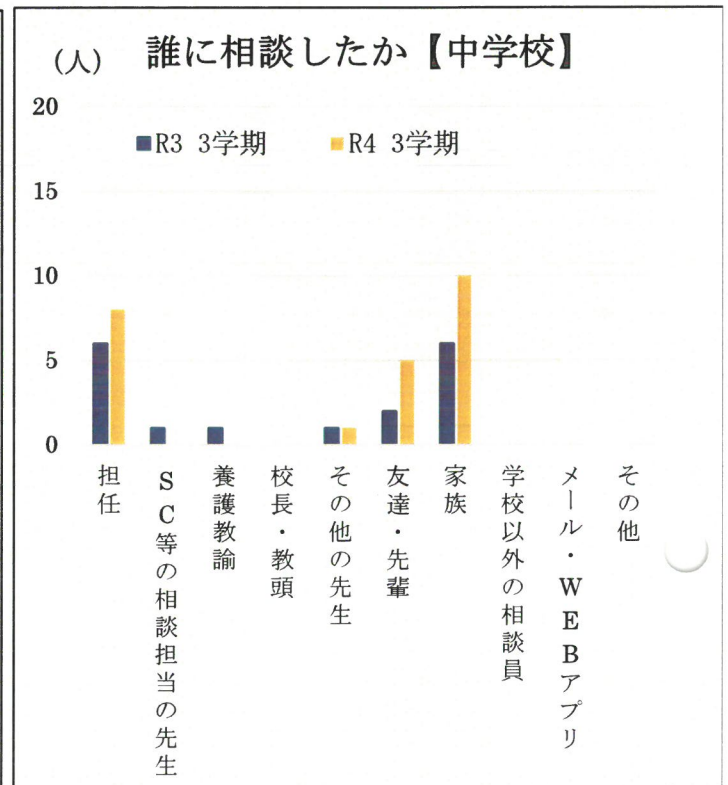
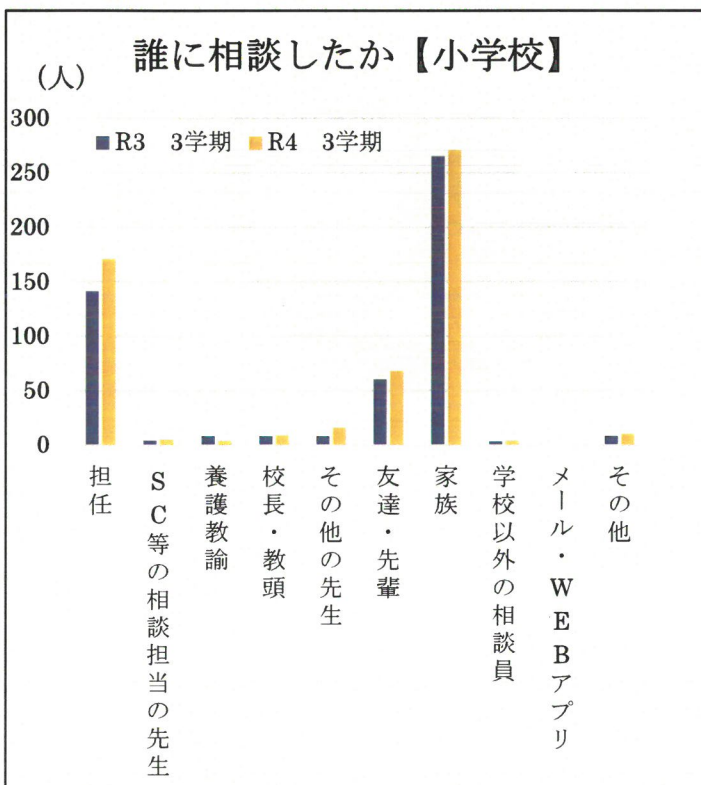
- ①「誰かに相談したか」との設問に対して、小学校では357件(70%)の児童が相談をしている。中学校では16件(64%)の生徒が相談を行っている。(アンケート実施時点)
- ②昨年度3学期と比較してアンケート実施時点における「相談した」割合が上がっている。小学生においては70%に達している。(小:68%→70%) (中:61%→64%)

【資料5】

いじめられたとき、誰に相談をしたか

(人、複数回答可)

内容	小1	小2	小3	小4	小5	小6	計	中1	中2	中3	計
担任	71	39	19	22	17	3	171	6	2	0	8
SC等の相談 担当の先生	1	0	0	2	1	1	5	0	0	0	0
養護教諭	0	0	0	3	0	1	4	0	0	0	0
校長・教頭	0	1	2	1	4	1	9	0	0	0	0
その他の先生	6	1	4	1	4	0	16	0	0	1	1
友達・先輩	12	17	5	13	13	8	68	3	1	1	5
家族	84	80	36	38	22	11	271	8	2	0	10
学校以外の 相談員	1	0	1	1	0	1	4	0	0	0	0
メール・WEBアプリ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
その他	2	2	3	3	0	0	10	0	0	0	0



【結果】

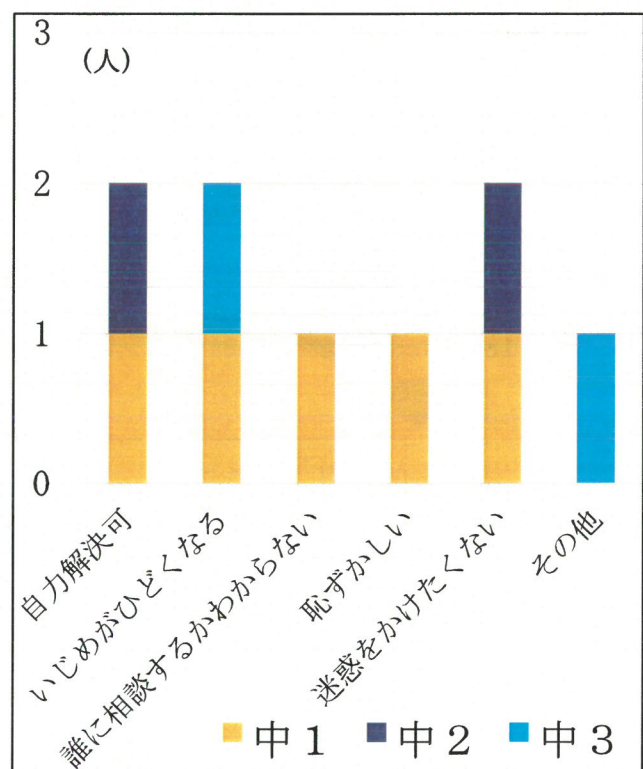
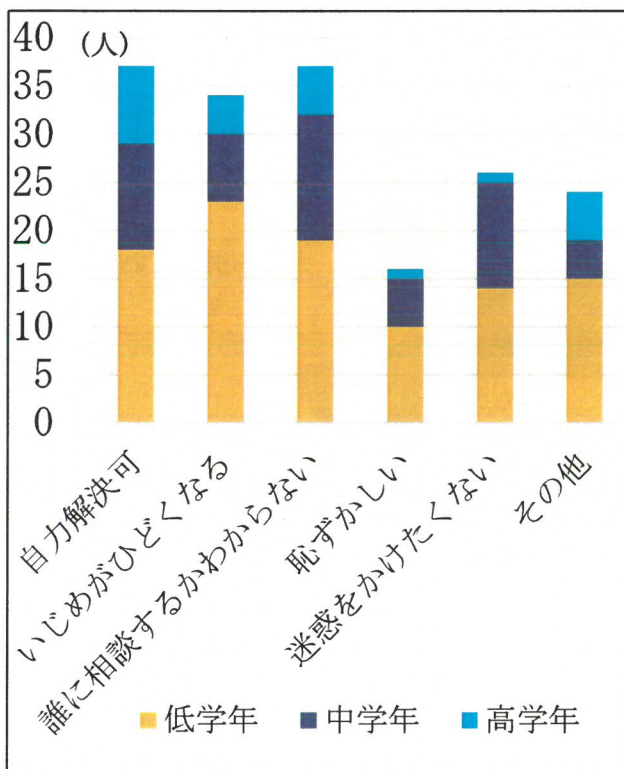
- ①昨年度の3学期と比べて、小・中学校ともに相談の件数は増えている。
- ②相談する相手としては、小・中学生ともに「家族」が一番多い。次に、「担任」が多くなっている。「家族」と回答した割合は小学生が49%、中学生が42%であった。「担任」と回答した割合は、小学生が31%、中学生は33%であった。
- ③昨年度の3学期と比べて、中学校では、「友達・先輩」に相談する割合が増えている。
- ④メール・WEBアプリでの相談は匿名であるため、アンケート結果には表れていないが一定数メールでの相談はある。(実際の相談数は5ページの参考データを参照)

【資料6】

なぜ相談しなかったか(したくてもできなかったか)

(人、複数回答可)

内容	小1	小2	小3	小4	小5	小6	計	中1	中2	中3	計
自力解決可	8	10	5	6	6	2	37	1	1	0	2
いじめがひどくなる	13	10	3	4	3	1	34	1	0	1	2
誰に相談するかわからない	11	8	8	5	4	1	37	1	0	0	1
恥ずかしい	4	6	3	2	1	0	16	1	0	0	1
迷惑をかけたくない	7	7	4	7	1	0	26	1	1	0	2
その他	6	9	2	2	2	3	24	0	0	1	1



【結果】

- ①相談できない理由として、小学生は「自力解決可」、「誰に相談するかわからない」の割合が高い。「自力解決可」、「誰に相談するかわからない」の回答は全体の21%であった。
- ②中学生が相談できない理由としては、「自力解決可」、「いじめがひどくなる」、「迷惑をかけたくない」が主にあげられる。
- ③小学生における「誰に相談するかわからない」という回答の中で、低学年児童の割合が51%であった。中学生は中学1年生が多い。「誰に相談するかわからない」と回答した低学年児童の数は、2学期と比較して減少している。
(2学期57人→3学期19人)
- ④小学生の「いじめがひどくなる」と回答した割合の中で、低学年児童の割合が68%と他の項目と比較して高かった。

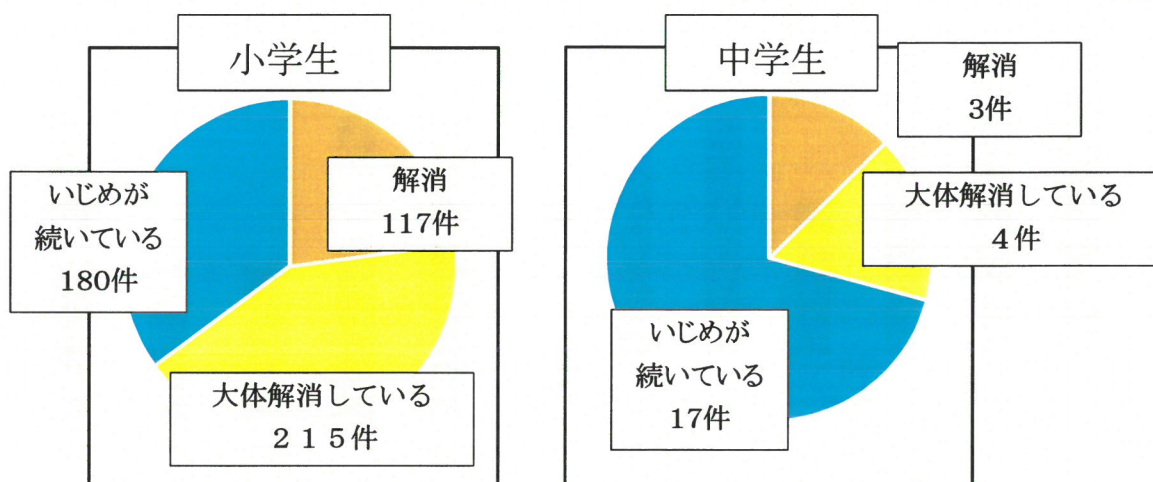
【資料7】

現在もいじめが続いているか(令和5年2月現在)

(件)

学年	小1	小2	小3	小4	小5	小6	計	中1	中2	中3	計
記名アンケート 認知件数	162	138	69	74	50	19	512	16	5	3	24
解消している	42	45	10	8	9	3	117	2	1	0	3
大体解消 している	67	54	31	34	21	8	215	3	1	0	4
いじめが 続いている	53	39	28	32	20	8	180	11	3	3	17

無記名アンケート 認知件数	122	110	63	66	44	33	438	13	9	2	24
------------------	-----	-----	----	----	----	----	-----	----	---	---	----



いじめアンケートに関する事後確認

(件)

	小学校	中学校
令和4年度2学期のアンケートで いじめが続いていると回答	248	11
上段の件数のうち現在もいじめ 継続と回答しているもの	17	2

※1 未解消のいじめについては、既に教育相談等をとおして聴き取りを行い、現在指導対応中である。

※2 今学期のいじめに関するアンケート後の解消状況については、来年度の「いじめアンケートに関する事後確認」に表される。

【結果】

①アンケート実施時(2月)に「いじめが続いている」と回答している割合は、小学校で35%、中学校で71%である。11月末時点でいじめが未解消のうち、今学期の調査時点で、現在もいじめが継続している件数は小学校が17件、中学校が2件ある。小学校は231件(93%)、中学校は9件(82%)が解消している。

②小学生の無記名式の認知件数は記名式の認知件数よりも少なかった。

報告事項(3)

令和4年度新体カテストの結果について

令和4年度新体カテストの結果について、別紙のとおり報告する。

令和5年3月22日報告

習志野市教育委員会

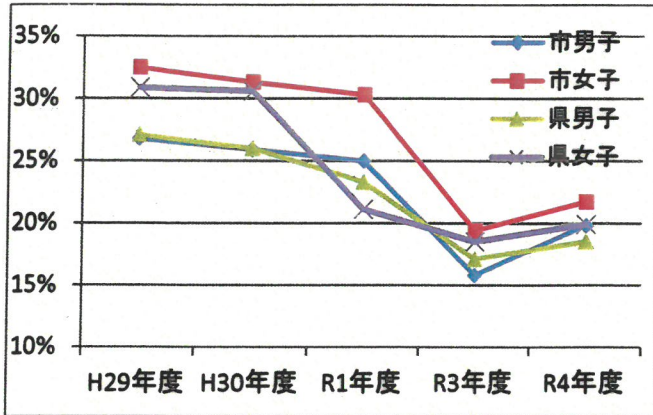
教育長 小 熊 隆

新体カテストの結果について【概要版】

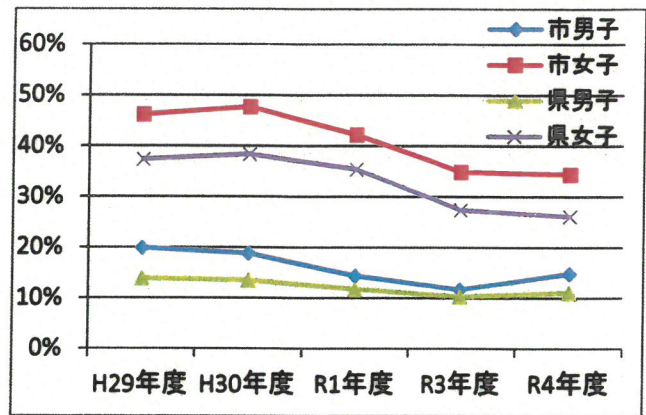
1 結果について

(1) 運動能力証交付者率の推移

【グラフ1 小学校運動能力証交付率の推移】



【グラフ2 中学校運動能力証交付率の推移】



※「運動能力証」は、新体カテスト「A判定」の児童生徒に県が交付(対象は小学校5年生・6年生と中学生)R2年度は中止

- ①昨年度と比較し、交付率は向上。
- ②中学校男子においては、令和元年度の交付率を上回った。

(2) 新体カテスト結果(スポーツ庁調査 小学校5年及び中学校2年における全国・県平均との比較)

- ①概ね全国・県平均を上回っている。小学校では、50m走、ソフトボール投げ、中学校では、握力が県平均を下回っている。
- ②令和3年度との比較については、概ね上昇、横ばいとなっている。

2 考察

①運動機会を確保し、体力向上に努めた成果が出ている種目が多い。

小学校では、体育授業の中での「本気時間」の活用や休み時間でのほたらきかけが大きい。中学校では制限がある中でも工夫をして部活動を実施している結果であると捉える。

※「本気時間」とは、児童生徒が黙々と活動する時間のこと。「習志野市指導重点」では、「脳に汗かく5分間」として、1単位時間内に設定するよう示している。

②分析結果の共有を図り、実践につなげることが必要である。

「新体カテスト」と「運動習慣等についてのアンケート」の結果分析を全校で共有し、意図的に運動する機会を設ける。

目標値を明確にし、運動そのものの質的な向上と意欲の向上を図っていくことが必要である。

3 今後の方向性

(1) 学校が取り組むこと

- ①小学校では走力、中学校では握力を体力向上の重点項目の設定。(小学校:走力 中学校:握力)
- ②教職員の共通理解を図り、課題を明らかにし長期的かつ継続的に体力を高める取り組み。
- ③目標設定・達成に向けた個々の評価基準の提示と、児童生徒が主体的に様々な運動に取り組む工夫。
- ④授業における「本気時間」の活用、「遊・友スポーツランキングちば」への継続的な取り組みを重点とした運動の機会づくり。

(2) 教育委員会が取り組むこと

- ①教科会議(4月)での資料配付と周知
 - ア 市の実態、体力向上の取り組みの重要性について
 - イ 教員の指導力向上のための評価基準や分析シート等について
- ②学校訪問や要請訪問時における指導
 - ア 児童生徒の実態に即した体力向上に向けた具体策について
- ③年間を通して全校に周知
 - ア 単元内容に応じた、本気時間(体力向上)の効果的な活用方法と実践例の提示
 - イ 「遊・友スポーツランキングちば」に関する情報(他校の様子、ランキング等)

新体力テストの結果について

1 運動能力証交付者数の推移

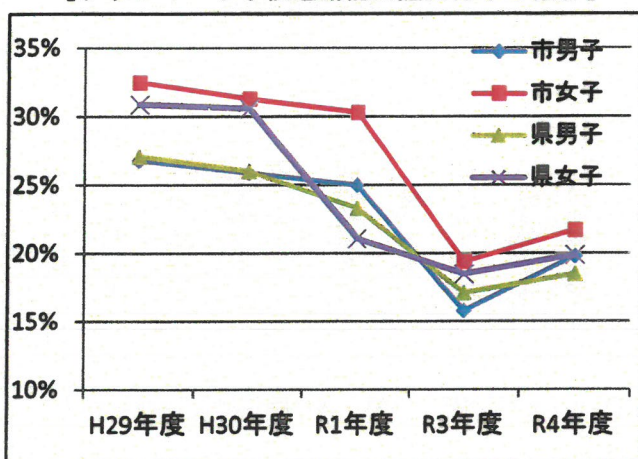
【表 1 過去5年間の運動能力証交付者数の推移（括弧内は交付率）と令和4年度県の交付効率】

区分	H29年度	H30年度	R1年度	R3年度	R4年度	【県R4】
小学校男子	378 (26.8%)	386 (25.9%)	378 (25.0%)	238 (15.8%)	305 (19.8%)	18.5%
小学校女子	468 (32.5%)	467 (31.3%)	438 (30.3%)	288 (19.4%)	322 (21.7%)	19.9%
中学校男子	405 (19.9%)	383 (18.8%)	273 (14.4%)	240 (11.7%)	315 (14.8%)	11.1%
中学校女子	900 (46.2%)	947 (47.7%)	802 (42.2%)	703 (34.9%)	683 (34.4%)	26.1%

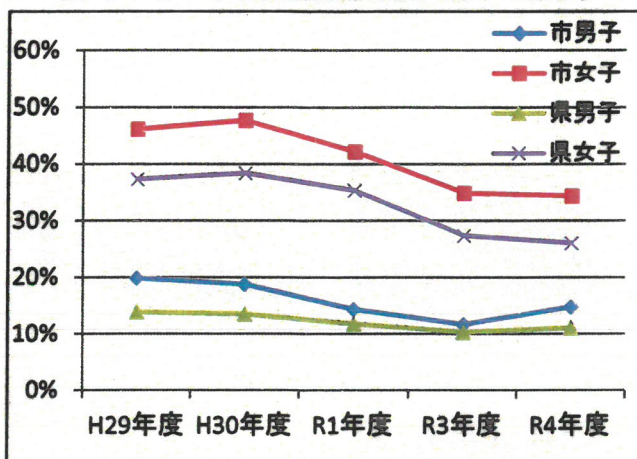
※「運動能力証」は、新体力テスト「A判定」の児童生徒に県が交付（対象は小学校5年生・6年生と中学生）

※令和2年度は体力テスト中止

【グラフ1 小学校運動能力証交付率の推移】



【グラフ2 中学校運動能力証交付率の推移】



- ① 運動能力証の交付を受けた小学校5・6年の男女、中学校の男女、すべてにおいて県の値を上回っている。小学校5・6年の男子は1.3ポイント、女子は1.8ポイント、中学校の男子は3.7ポイント、中学校女子は8.3ポイント上回る結果となった。
- ② 昨年度と比較し、小学校及び中学校において交付率は向上した。小学校、中学校女子においては、新型コロナウイルス感染症以前の数値には届かないものの、中学校男子においては、令和元年度（新型コロナウイルス感染症拡大前）の交付率を上回った。

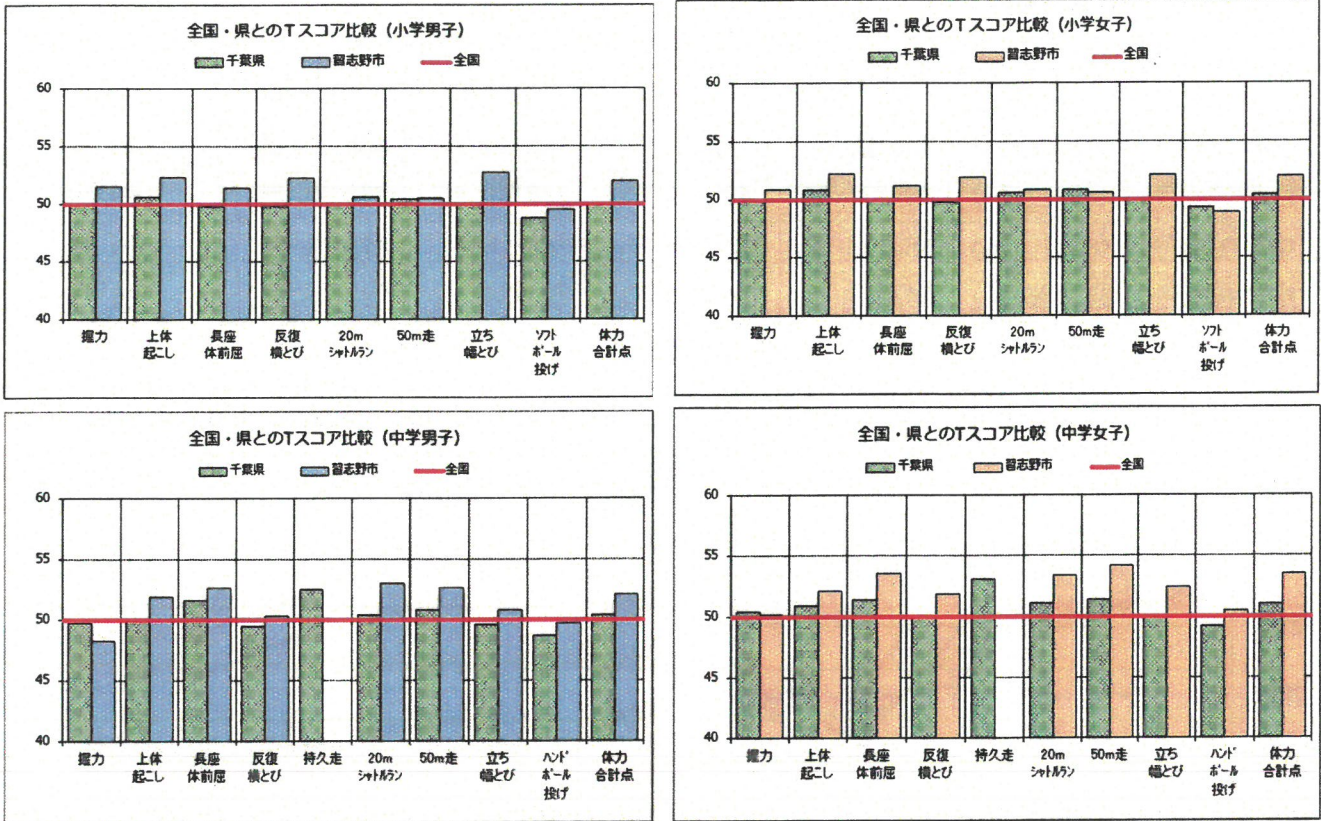
【考察】

- ① 新型コロナウイルス感染症拡大により生活様式が大きく変化し、活動の制限やスクリーンタイムの増加などにより、運動機会や運動時間の減少に拍車がかかっていたが、小学校では運動機会を確保するために業間体育や授業での本気時間（児童生徒が黙々と活動する時間のことで「習志野市指導重点」では、「脳に汗かく5分間」として、1単位時間内に設定するよう示している。）の活用、さらに中学校では制限がある中でも工夫をして部活動を行い、体力の向上に努めたことが考えられる。
- ② 新体力テストの結果と運動習慣等についてのアンケートの結果を分析し、教職員が共通理解を図り、学校生活の中に、意図的に運動する機会を設けるとともに、児童生徒自身が目標値を明確にできるように評価基準を示し、意欲の向上を図るとともに、運動そのものの質的な向上も図っていくことが必要である。

2 新体力テスト8種目の結果と考察

(1) 全国・県平均との比較 (国公立の小学生：約99万人 中学生：91万人を対象 実施時期：4～7月)

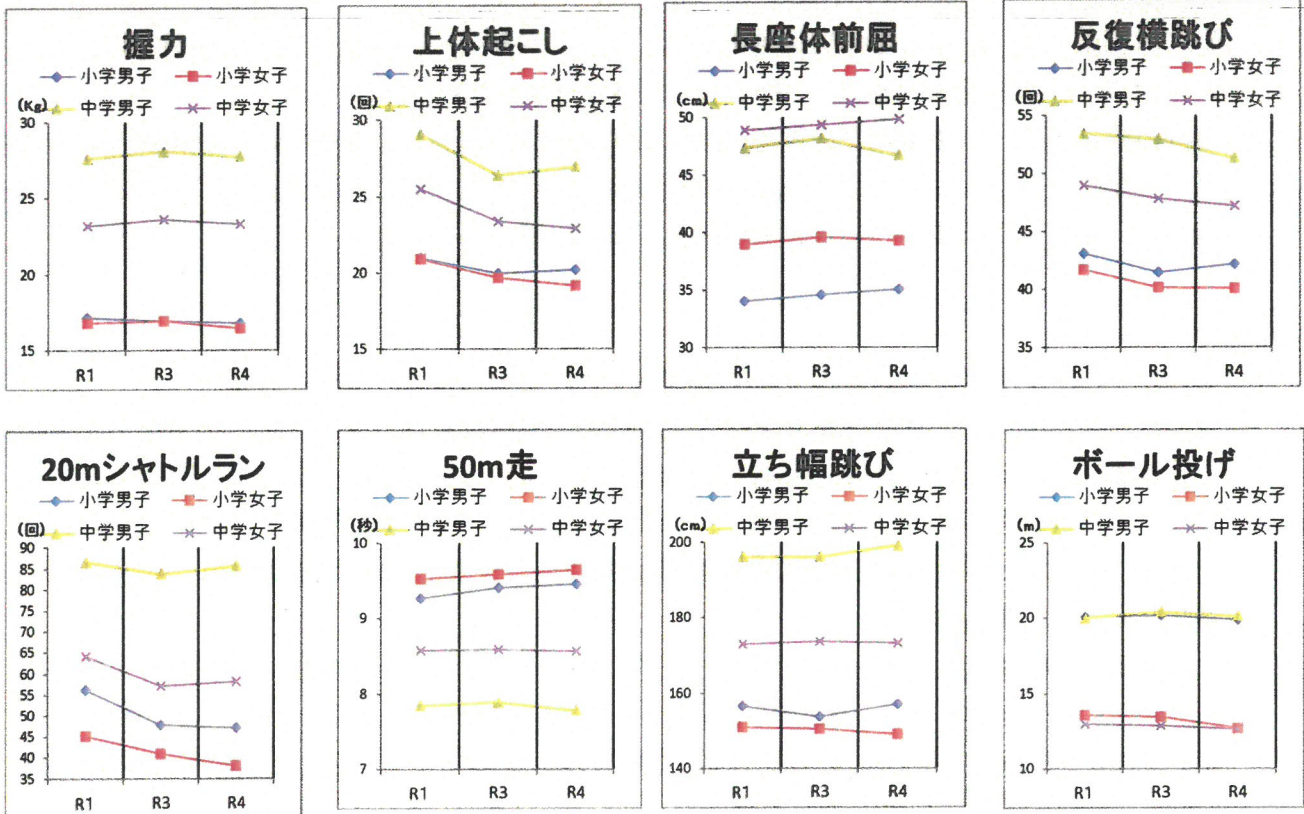
【表2 新体力テスト各種目の小学校5年及び中学校2年男女別平均値 (スポーツ庁調査)】



※持久走と20mシャトルランは、選択して実施することとなっている。

(2) 過年度との比較

【表3 新体力テスト各種目の小学校5年及び中学校2年男女別平均値の経年変化を表したグラフ】



【考察】

① 本市の児童生徒の新体力テストの結果は、概ね全国・県平均を上回っている。小学校では、50m走、中学校では、握力が県平均を下回り課題として捉えている。

その要因としては、小学校においては、令和元年度から指摘されていた、学習以外のスクリーンタイムの増加、肥満傾向の児童の増加の傾向に加え、コロナ禍の生活において、運動の機会の減少が1番に考えられる。中学校においては、コロナ禍で活動の制限はあったものの、部活動の実施による、運動機会の確保がこの結果に表れたと考えられる。

② 50m走の値が低下している傾向の要因には、日常生活の中で、全力で走りながら遊ぶことや夢中になって他者と駆けっこをすることなどの機会が減っていることが考えられる。学校生活の中に、走る楽しさを得られる機会を適切に設けるとともに、児童生徒一人一人が運動の楽しさや大切さを感じられるよう体育科や保健体育科を核にして、運動の苦手な児童生徒への指導内容や方法を工夫するなどの改善を図ることが重要である。

③ 過年度との比較については、概ね上昇、横ばいとなっている。次年度においても運動の機会を確保し、体力向上に向けた具体的な取組が重要である。

④ 体育学習において、児童生徒に自己の健康・体力の向上について考えさせる場面を設定し、それぞれの種目の目標値を定め、達成するための場を意図的に設定する。

⑤ 体力・運動能力の連続的・発展的な向上を図るため、小学校と中学校の体育に関する学習指導について、双方の教員間での情報交換の充実を図ることが大切である。

3 今年度の取り組み

新型コロナウイルス感染拡大防止に伴う教育活動の制限は、令和元年度末の全国一斉の臨時休校から始まり、児童生徒のそれまでの学校生活を大きく変えた。体育の授業では、接触種目や集団種目などを避け、マスクを着用していることから激しい運動も極力行わずに行ってきた。その影響は計り知れず、令和3年度の体力調査の結果で著しい低下となった。

この結果を受け、体力向上のきっかけづくりとして、意図的に運動の機会を確保するために千葉県教育委員会が実施している「遊・友スポーツランキングちば」を体育主任研修で周知し、全小・中学校で実施した。

種目は、以下の6種目である。

- | | | | |
|------------------|---------------|-----------|--------|
| ①チャレンジスピード2 | ②みんなで短縄跳び | ③みんなで二重跳び | ④新聞棒投げ |
| ⑤バスケットボールフリースロー2 | ⑥サークルターゲットスロー | | |

※中期分において、「みんなで二重跳び」で秋津小学校（4年1組）、「みんなで短縄跳び」で谷津南小（2年1組）が千葉県1位となった。

体育学習時の本気時間の活用や業間体育、屋休み等の時間を使って全ての学校が実施し、運動の機会を確保するうえで有効であった。また、記録が県教育委員会のホームページに載ることで児童生徒の目標が明確になり、意欲の向上にもつながっていたことから、令和5年度においても実施していく。

4 今後の方向性

(1) 学校が取り組むこと

- ① 体力向上を来年度の指導の重点に置く。特に小学校では走力（50m走）と投力（ソフトボール投げ）、中学校では握力を課題として取り組む。
- ② 新体力テストの結果から、各校の実態を把握・分析したうえで、課題を明らかにし、全教職員で共通理解を図り、年間を通して体力向上に向けた取り組みを位置づける。
- ③ 個々に目標をもたせるために、評価基準を提示し、目標をもち主体的に取り組む活動になるよう工夫をする。
- ④ 体育・保健体育の授業の充実を図るとともに、意図的に体力向上（本気時間）の時間を設定する。
- ⑤ 運動機会を確保するため、長期的かつ継続的な取組として「遊・友スポーツランキングちば」に積極的に取り組む。
- ⑥ 体力・運動能力の連続的・発展的な向上を図るため、小学校と中学校の体育に関する学習指導について、双方の教員間での情報交換の充実を図る。

(2) 教育委員会が取り組むこと

- ① 4月に開催予定の教科会議において、体育主任に対して、令和4年度体力テストにおける市の実態を周知し、体力向上の取組の重要性を意識付ける。また、新体力テストの実施に向け、児童生徒が目標をもって取り組めるよう、評価基準や分析シートを配付する。
- ② 市全体で「遊・友スポーツランキングちば」に積極的に取り組めるよう、他校の様子やランキング等を全学校に周知する。
- ③ 体育に関する指導力の向上に向けて、運動が苦手な児童生徒への段階的な指導方法、補助の仕方や、意欲を喚起し、子どもの変容を促す言葉のかけ方等について、教科会議において資料配付により具体的な情報等を発信するとともに、学校訪問時の指導案検討等において指導していく。

令和4年度 習志野市新体カテスト結果

学年	体カテスト種目										総合評価		
	握力 (kg)	上体起こし (回)	長座 体前屈 (cm)	反復横とび (点)	20m シャトルラン (回)	50m走 (秒)	立ち幅とび (cm)	ソフトボール 投げ (m)	測定結果の総合評価別人数・割合		総合評価		
	全国	県	市	全国	県	市	全国	県					市
1年生	9.24	12.05	26.39	28.28	18.92	11.33	1117.03	8.43	A	B	C	D	E
	9.68	12.15	27.15	27.55	19.67	11.22	116.24	8.64	A	B	C	D	E
	9.35	11.64	26.96	27.75	20.08	11.53	118.51	8.48	126	237	223	111	77
2年生	10.74	13.86	28.61	31.65	28.40	10.55	127.19	11.08	A	B	C	D	E
	11.32	14.48	29.03	31.22	27.18	10.54	126.66	11.65	A	B	C	D	E
	11.10	14.23	29.32	30.91	27.03	10.78	129.61	11.35	116	157	264	152	55
3年生	12.73	15.73	30.34	34.95	36.45	10.07	136.77	14.74	A	B	C	D	E
	13.11	16.39	30.47	34.47	33.45	10.01	136.65	14.67	A	B	C	D	E
	12.90	16.13	31.54	34.10	33.20	10.18	137.49	14.24	100	183	235	142	59
4年生	14.39	17.98	31.78	39.43	44.27	9.59	147.73	18.47	A	B	C	D	E
	14.87	17.92	32.43	37.96	39.89	9.65	144.51	17.94	A	B	C	D	E
	14.75	18.27	31.14	37.49	39.67	9.80	146.57	17.05	101	187	212	157	90
5年生	16.21	18.86	33.79	40.36	45.92	9.53	150.83	20.31	A	B	C	D	E
	16.21	19.20	33.64	40.22	45.94	9.48	151.02	19.33	A	B	C	D	E
	16.81	20.22	35.05	42.22	47.23	9.47	157.15	19.91	167	179	219	136	66
6年生	19.77	21.65	35.78	45.86	61.16	8.84	166.33	25.43	A	B	C	D	E
	21.47	22.43	38.49	46.23	58.11	8.69	170.59	25.02	A	B	C	D	E
	20.12	21.93	38.31	46.43	53.83	8.99	169.16	23.62	138	201	151	139	55

※網掛けは、県平均値を上回っている項目。(平均値:全国R3、県R4)
 ※5年生の数値は、スポーツ庁の調査の数値(全国R4、県R4)

令和4年度 習志野市新体力テスト結果

学年	全国 県 市	体力テスト種目										総合評価										
		握力 (kg)	上体起こし (回)	長座 体前屈 (cm)	反復横とび (点)	20m シャトルラン (回)	50m走 (秒)	立ち幅とび (cm)	ソフトボール 投げ (m)	測定結果の総合評価別人数・割合		0% 10% 20% 30% 40% 50% 60% 70% 80% 90% 100%										
		1	2	3	4	5	6	7	8					9	10							
1年生	8.17	11.56	28.78	27.39	15.75	11.77	108.78	5.70	A	B	C	D	E	127	222	220	112	41				
2年生	10.18	13.46	31.01	30.74	23.14	10.89	119.28	7.36	A	B	C	D	E	120	207	249	145	33				
3年生	11.95	15.91	33.91	33.75	29.13	10.32	130.53	9.45	A	B	C	D	E	102	222	213	142	45				
4年生	13.87	17.64	35.52	37.64	35.60	9.91	141.05	11.61	A	B	C	D	E	126	180	192	136	58				
5年生	16.10	17.97	38.18	38.66	36.97	9.70	144.55	13.17	A	B	C	D	E	171	214	194	112	39				
6年生	19.53	19.66	40.71	43.44	47.52	9.16	155.76	15.97	A	B	C	D	E	151	196	205	113	38				
平均値	8.94	11.52	29.97	27.20	16.93	11.79	111.46	5.82	10.60	14.05	32.18	29.97	22.13	10.61	131.16	9.19	11.64	11.27	12.85	12.67	15.38	15.24

※網掛けは、県平均値を上回っている項目。(平均値:全国R3、県R4)
 ※5年生の数値は、スポーツ庁の調査の数値(全国R4、県R4)

令和4年度 習志野市新体力テスト結果

			体カテスト種目							総合評価						
			握力 (kg)	上体起こし (回)	長座 体前屈 (cm)	反復横とび (点)	20m シャトルラン (回)	50m走 (秒)	立ち幅とび (cm)	ハンドボール 投げ (m)	測定結果の総合評価別人数・割合					
											A	B	C	D	E	
男子	1 年生	全国	24.53	23.92	40.98	49.69	70.58	8.38	185.41	18.14						
		県	24.14	22.96	41.45	48.10	63.24	8.49	180.80	16.98						
		市	22.90	23.52	41.91	48.26	65.14	8.51	181.83	17.07		46	142	211	189	90
男子	2 年生	全国	28.99	25.74	43.87	51.05	78.07	8.06	196.89	20.28						
		県	28.85	25.79	45.61	50.63	79.10	7.97	195.60	19.46						
		市	27.78	26.95	46.73	51.33	85.73	7.78	199.20	20.12		91	167	201	138	41
男子	3 年生	全国	34.65	28.96	47.81	56.28	94.44	7.41	216.35	23.54						
		県	34.14	28.48	50.16	54.63	86.65	7.41	213.41	22.53						
		市	32.88	29.42	53.37	55.77	92.02	7.40	213.84	22.83		178	160	177	81	23
女子	1 年生	全国	21.73	20.50	43.64	45.78	50.85	8.98	167.23	11.92						
		県	21.22	20.31	44.69	44.54	46.86	9.03	161.95	11.09						
		市	21.10	20.25	44.68	44.83	50.77	9.04	166.02	11.12		190	192	172	66	7
女子	2 年生	全国	23.21	21.67	46.07	45.81	51.60	8.96	167.04	12.45						
		県	23.38	22.20	47.58	45.85	53.72	8.83	167.39	12.11						
		市	23.32	22.91	49.86	47.21	58.30	8.57	173.37	12.65		223	194	142	47	11
女子	3 年生	全国	25.73	24.55	49.00	49.34	60.91	8.58	178.61	14.44						
		県	25.23	23.59	50.34	46.94	52.44	8.69	170.98	13.17						
		市	25.46	25.17	52.05	48.67	58.19	8.47	180.16	14.06		270	146	120	55	9

※網掛けは、県平均値を上回っている項目。(平均値:全国R3、県R4)
※2年生の数は、スポーツ庁の調査の数値(全国R4、県R4)